

2006 年度

<p>科目名</p> <p>教科教育法特論</p>	<p>対象学科・学年 教福2回生</p>	<p>担当者</p> <p>高村 博正</p>
<p>授業テーマ：英会話をしたいひと対象の英語クラスです。むずかしい教育法理論より、まずあなたが英語を使いましょう。日本語式発音の英語でも、コミュニケーションがとれるほうが勝ちです。恥ずかしさやてらいや遠慮を捨てて、自由に英会話をしましょう。たのしい英語訓練の結果、やがて英語をどうやって（自分に）教えれば一番効果的かという「教育法」がわかります</p>		
<p>授業の概要と目標：「コテコテの大阪弁英語」を使ってどのくらい効果的なコミュニケーションが図れるのでしょうか。①たのしくペアを組んで（毎回、新しいひととペアになります）英会話をします。やがて、「英会話」が「英対話」になるのが、自分でもたのしく発見できます。また、ゆっくりした（日本人担当者）の英語朗読をパソコンの音声ファイルから聞き取ります。わからない音や単語や音のつながりを、丁寧に説明します。何度も同じ文を聴いて（速度は各種の——速い／中くらい／遅い——スピードで録音されています）わかるまで繰り返します。やがて、自分の英語力の伸びによるこびを感じるでしょう。</p>		
<p>評価方法： 前期・後期の定期試験の他に、毎回の訓練参加とスコアカードの記入成果が評価の対象になります。毎回の評価点（100 点満点）の積算を講義回数で割り、その 6 割以上獲得が基礎点です。優良可の評価は従来通り。欠席は 20 点を加算。遅刻は当日の得点を半減する。毎回の評価点は、宿題の準備と成果が 4 割を占め、授業での訓練の評価が 6 割となりますが、教師が学生を評価するだけでなく、逆に学生が教師を毎回評価するシステムを採用します。</p>		
<p>テキスト：</p> <p>インターネットの英語学習サイトを利用します</p>	<p>著者：</p>	<p>出版社：</p>
<p>参考書：</p> <p>英語の絵本が図書館に所蔵されています。これらも利用します</p>	<p>著者：</p>	<p>出版社：</p>
<p>授業スケジュール・内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生と担当者の紹介と交流→入門講義と「ブレイン・ストーム」→準備不要 2. たのしい英会話→意識改革のための実習→普通の英会話です（一見） 3. たのしい「英対話」→新しい発見→「会話」のほんとの意味 4. やさしい発音のコツ（日本語式）→だれでもできます→英語発音発音クリニックとは異質 5. とにかく話してみよう①→英語のたのしさの重要性→LL 教室実習 6. とにかく話してみよう②→英語のたのしさの重要性→書取実習 7. とにかく聴いてみよう①→自由な英語訓練と実践→書取実習 8. とにかく聴いてみよう②→自由な英語訓練と実践→書取実習 9. 英語を書ける自分に驚く①→F.Q.W.(授業で説明します) →潜在的英語力の発掘・発見 10. 英語を書ける自分に驚く②→F.Q.W.(授業で説明します) →潜在的英語力の表出 11. 英語童話・絵本の読み聴かせとその効果①→海外研修での利用を想定して→英語圏の子どもときみ 12. 英語童話・絵本の読み聴かせとその効果②→海外研修での利用を想定して→朗読の効果とは 13. 魅力的な英語の使い手とは→英語のほんとにたのしさ→自分の実習の振り返りノート 14. まとめと将来の展望→これからのきみの可能性→意見発表 15. テスト→自己作成のテストと自己採点→各自の意見を提出 <p>★在学生・卒業生・近隣の市民を対象に、毎週木曜日の 2 限と昼休みに「英語・通訳勉強会」を開いている。自由参加であるのでこのクラスの評価に連関しない課外活動であるが、読み聴かせ訓練の成果の確認には最適の機会である。できるかぎりこういう機会を利用して、コミュニケーションとしての英語力を身につける態度が重要である。詳しくは担当者の個人的ホームページを参照のこと：http://www.ne.jp/asahi/takamura/hiromasa/</p> <p>★英語や発音訓練や通訳訓練に関する各種質問やコメントはメールで送信すること（takamuh@osaka-ohtani-u.ac.jp）。</p> <p>★毎回提出するスコアカードは、採点后、その次のクラスで各自に返却する。</p>		